

問

原発再稼働の 政府方針への見解は

答

村としての責任を果たしていく

問 8月24日に突然政府は、東海第二を含む原発7基の再稼働を目指す方針を示した。新増設をしない政策を転換し、地域の状況や住民の意向を無視して先の見通しもないまま願望を語った形で、批判にさらされている。「いつどこに」の計画もなく小型原子炉を造るとか、80年まで延長とか稼働していた時間だけで運転期間を計算するなど、国民の命を守ることを優先せず、地元にも圧力をかけようというのか。電力ひっ迫は無策を続けてきた政府



あべ 功志 議員



工事が進む東海第二原発
工事終了は2024年9月予定

と電力会社の責任。あえて電力ひっ迫を宣伝して原発依存の気持ちで国民に起こさせようという意図か。6市村長の原子力所在地域首长懇談会の反応は。この先、理不尽な圧力が村にかかってくるかもしれないことも含めて、村長の見解は。

答 原子力所在地域首长懇談会ではこの件は心当たりがない。立地地域ごとの事情があるので、直接住民と接する私としては、これまでも同様、村民の安心・安全を第一に、自らの責任を果たしていく。

問

洪水避難タワーを 建設しては

答

様々な課題があり検討していない

問 真崎古墳群南斜面

問 日立市では、久慈川と支流の茂宮川の氾濫で逃げ遅れによる人的被害を防ぐため、今年5月に高さ9.7m、100人収容できる洪水避難タワーを神田町に建設した。久慈川沿いの住民の危機意識は強い。洪水避難タワーを建設してはどうか。

答 洪水避難タワーは逃げ遅れた場合の緊急避難時に一定の有効性はあるが、用地の確保や財源、建設後の運用面に課題があり現時点では検討していない。



新政とうかい
おおうち のりお 議員
大内 則夫



日立市神田町に完成した洪水避難タワー

答 地域の声を聞きながら進めていく

問 令和2年には前向きな答弁があった。その後2年半の間に住民の整備により、ミカンやブルーベリー、水芭蕉等が植栽され散歩に訪れる方も多くなった。買収の考え方は。

答 真崎自治会や各種団体の意見を伺いながら将来ビジョンを共有し、整備活用の方針が定まり、具体的な計画として進める中で土地取得の必要性についても改めて協議したい。